# 島根県立大学・島根県立大学短期大学部

# 松江キャンパス

# 令和４（2022）年度ＦＤ報告書

１．学内研修会実施　報告　 p.2-4

２．授業評価アンケート　実施結果
　２－（１）人間文化学部　 p.5-9
　２－（２）短期大学部　p.10-14

３．松江キャンパス独自の取り組み　p.15

４．松江キャンパス FD 委員会　今後の課題　p.16

令和 5 年 3 月 31 日
松江キャンパス FD 委員会

## 1. FD 学内研修会の実施報告

### （１）「令和４年度第１回 FD 研修会」

日　時：令和４年９月 27 日（金）　13 時～14 時 30 分

場　所：松江キャンパス応接室（オンライン配信）

演　題：高校から見た魅力ある公立大学の姿

講　師：島根県教育庁教育指導課　高等学校教育推進スタッフ　真玉保浩
　　島根県教育庁教育指導課　地域教育推進室キャリア教育スタッフ　主任　植田隆則

内　容：高大接続の推進に向けたこれからの公立大学に期待されることの確認

概　要：

高大接続の充実へ向けて、県内高校生に選ばれる大学の姿を確認するために、県内の高校生及び高校現場の現状を把握し、これからの大学教育の在り方を考える場として本研修会を企画した。

前半には、昨今の島根県の若者の動き、中でも島根の高校生の動きについて確認した後で、島根の高校魅力化の取組についてグランドデザインの概要や現状や高校生の多様な進路希望の実現に向けた取組について説明を受けた。

後半には、島根県立高等学校の教育の現状について、特にキャリア教育の事例を普通科及び専門学科について紹介していただくとともに、近年の大学への進路決定の傾向を分析していただいた。このことから、大学へ対する期待と今後の進路指導の在り方について説明を受けた。

全体での発表・意見交換の時間を十分にとることができなかったので、アンケート用紙への記入で対応することとした。

アンケート結果：16 名

表１　本日の研修内容は今後の授業運営を考える上で有益でしたか

| | 回答者数（人） | 割合（%） |
|---|---|---|
| とても有益だった | 12 | 75 |
| 少しは有益だった | 4 | 25 |
| あまり有益ではなかった | 0 | 0.0 |
| まったく有益ではなかった | 0 | 0.0 |

主な感想

・各高校がグランドデザインを策定して取り組んでいることがわかりました。県立大志願者がどのように学部・学科を選んでいくのか、具体的に知りたいと思いました。

・探求学習や高大連携など、様々な県教委の取組は新たな自分発見や学生の可能性を広げる点ですごく有益だと感じています。

・高校側が推薦入試も視野に入れて探究学習を強化している一方で、大学側は必ずしもそれに対す

る評価の比重を高くしているとは言えないでしょう。どうしても探究学習は「生徒と教師による共同作業」であるため、生徒の「本当の実力」を見たい大学からすると不人気だろうなと思いますが、このままだと高校と大学との思惑がどんどん擦れ違っていきそうな気がしました。

・日々の授業、学生との何気ないやりとり、そういうことの積み重ねを大切にする、究極的にはそこに尽きるのかなと思いました。

評価と課題：

研修会については、とても有益だった 75%、少しは有益だった 25%という結果となり、高い評価を得られた（表 1 参照)。高校現場の声が聞けて有益だったという評価する声が多かった。

その一方で、「広報に携わっている身として、考えさせられることの多い研修会でしたが、「今後の授業運営を考える上で」有益だったかというと、必ずしも結びつかない内容だった」というようにより授業改善に活かせる内容であるといいという意見もあった。引き続き FD の在り方について検討を続けたい。

（２）「令和４年度第２回 FD 研修会」

日　時： 2022 年 12 月 15 日（木）14：50～16：20

演　題：倫理審査委員会・FD 委員会　共催研修会
「人文・社会科学における研究倫理と研究不正」

方　法： オンライン（ Zoom にて開催 ）
松江キャンパスより 3 キャンパスに発信

講　師： 小森田 秋夫 先生（東京大学名誉教授）

概　要：

・大学教員がわきまえておくべき研究倫理の基礎的事項
・それを遵守しなかった場合に生じる研究不正がどんなものか
・「人を対象とする研究」の適応範囲等について
・大学生の研究を指導する上で留意するべき研究倫理について

参加者：

3 キャンパス総計 48 名（教員および事務職員）

アンケート結果： 27 名（回答率　56％）

| 質　問 | 回 答 内 容 | | |
|---|---|---|---|
| Q1. 本日の研修内容は今後の研究活動・研究指導を考える上で有益でしたか | とても有益だった<br>20 | 少しは有益だった<br>6 | 有益ではなかった<br>0 |
| Q2. 本日の研修会について、ご意見、ご感想をお聞かせください。<br>【抜粋】 | ●もう少し領域限定の話を聴きたいと思いました。<br>●自己盗用に関するお話が印象に残りました。<br>●研究倫理というより、今後社会人・専門職として働くうえで必要なエッセンスも含まれていたように思いました。<br>●研究倫理に対する考え方の歴史的な変遷が興味深かったです。<br>●研究を支援する立場にある大学職員はどのようにこの問題に向き合うべきなのか、どうすれば不正の防止に貢献できるのかについて考えていく必要があると思いました。<br>●事前に質問など集めておいて、それに回答する(Q＆A)もあるとよかったかもしれません。<br>●分野は異なりますが、出雲キャンパスでも参考にさせていただける部分が多かったように思います。<br>●質問もさせていただき、直接、答えが聞けて良かったです。 | | |

## ２-(1)　授業評価アンケートの実施報告（人間文化学部）

（１）目　　的：「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

（２）方　　法：学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

（３）実施期間：（春学期）令和４年７月２１日（木）～８月１９日（金）
（秋学期）令和５年１月２４日（火）～２月１７日（金）

（４）回収率

人間文化学部の授業評価アンケートの回収率は、春学期が 58.8%、秋学期が 61.1%となった。春学期は人間文化学部発足以来最低に数値であり、秋学期には若干回復したとはいえ、キャンパスを同じにする短大部の回収率と比べ全体として低調感は否めない。低回収率の一因に、新型コロナウイルスの流行に伴う授業実施方法の変更等があると考えられるが、次年度から対面授業が原則となることが予想される中、授業評価アンケートの目的と効用についてこれまで以上にわかりやすく説明する必要があるだろう。

（５）結果および考察

人間文化学部全体の授業評価において、総合評価として「非常に満足している」と「満足している」を合計すると、春学期 89.3%、秋学期 93.3%になり、全体として授業満足度は高いと言える。ただし、基礎教育科目と専門科目を比較すると、後者に比べて前者は低めになっており、この傾向は以前と変わらない。全体として満足度が高い中で基礎教育科目のどういう点に満足が得られていないのかを確認する必要があろう。また、学びの道筋として、基礎教育科目と専門科目の連携を今以上に図っていくことも必要だろう。

具体的な調査項目のそれぞれについて、項目間の相関の度合いを見てみると、特に強い相関関係は見当たらなかった。ただし、「授業外学習時間」と「総合評価」との相関係数が他の項目間の相関係数に比べて低くなっている点が一点確認できる。そこから、全体として授業には満足していても、それが必ずしも学生自身の自発的な学習にはつながっていないことが推察できる。授業に対する満足を自発的な学習につなげるための工夫（例えば反転授業など）が求められよう。

表１　アンケートの回収率（令和 2～4 年度）

| | 受講者数 | 回収数 | 回収率（%） |
|---|---|---|---|
| 令和 4 年度 秋学期 | 3871 | 2367 | 61.1 |
| 令和 4 年度 春学期 | 4711 | 2771 | 58.8 |
| 令和 3 年度 秋学期 | 3716 | 2586 | 69.6 |
| 令和 3 年度 春学期 | 4982 | 3087 | 62.0 |
| 令和 2 年度 秋学期 | 4020 | 2610 | 64.9 |
| 令和 2 年度 春学期 | 4472 | 3253 | 72.7 |

表２　各評価項目の平均点数

| 項目 | A 1 | B 1 | B 2 | B 3 | C 1 | C 2 ② | C 3 | C 4 | C 5 | C 6 | D |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内容 | 自習 | 授業内容について | | | | 授業方法について | | | | | 総合 |
| | 授業外学習（予習・復習など）に時間をかけた（週あたりの平均で） | 自分の水準に適した授業内容であった | 授業で教わる内容の分量は適切であった | 知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった | 準備がよくされていて熱意が感じられた | 対面授業における板書・OA・視聴覚機器・配布資料などが有効に使われていた | 遠隔授業における実施機器及び関連アプリが有効に使われていた | 学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた | 説明は分かりやすかった | シラバスで説明される授業の目的や達成目標等を達成できたと思うか | 総合的に評価してこの授業に満足している |
| **学部全体** | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.30 | 2.33 | 2.19 | 3.35 | 3.60 | 3.56 | 3.17 | 3.43 | 3.50 | 3.50 | 3.58 |
| 平均（春） | 1.28 | 2.37 | 2.23 | 3.24 | 3.50 | 3.52 | 3.09 | 3.28 | 3.36 | 3.40 | 3.45 |
| 1 年 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.26 | 2.32 | 2.22 | 3.31 | 3.64 | 3.58 | 2.95 | 3.43 | 3.49 | 3.47 | 3.58 |
| 平均（春） | 1.25 | 2.40 | 2.22 | 3.16 | 3.49 | 3.52 | 3.06 | 3.29 | 3.36 | 3.41 | 3.43 |
| 2 年 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.32 | 2.34 | 2.16 | 3.45 | 3.62 | 3.64 | 3.34 | 3.48 | 3.57 | 3.58 | 3.63 |
| 平均（春） | 1.38 | 2.35 | 2.22 | 3.38 | 3.55 | 3.60 | 3.17 | 3.32 | 3.43 | 3.43 | 3.56 |
| 3 年 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.39 | 2.34 | 2.20 | 3.32 | 3.51 | 3.34 | 3.36 | 3.36 | 3.40 | 3.41 | 3.53 |
| 平均（春） | 1.22 | 2.37 | 2.28 | 3.12 | 3.41 | 3.36 | 2.93 | 3.13 | 3.18 | 3.29 | 3.28 |
| 4 年 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.27 | 2.15 | 2.17 | 2.92 | 3.30 | 3.40 | 3.38 | 3.28 | 3.37 | 3.38 | 3.42 |
| 平均（春） | 1.18 | 2.18 | 2.12 | 3.55 | 3.73 | 3.75 | 3.53 | 3.66 | 3.68 | 3.58 | 3.71 |
| 基礎科目 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.16 | 2.29 | 2.16 | 3.14 | 3.52 | 3.50 | 2.66 | 3.28 | 3.41 | 3.45 | 3.47 |

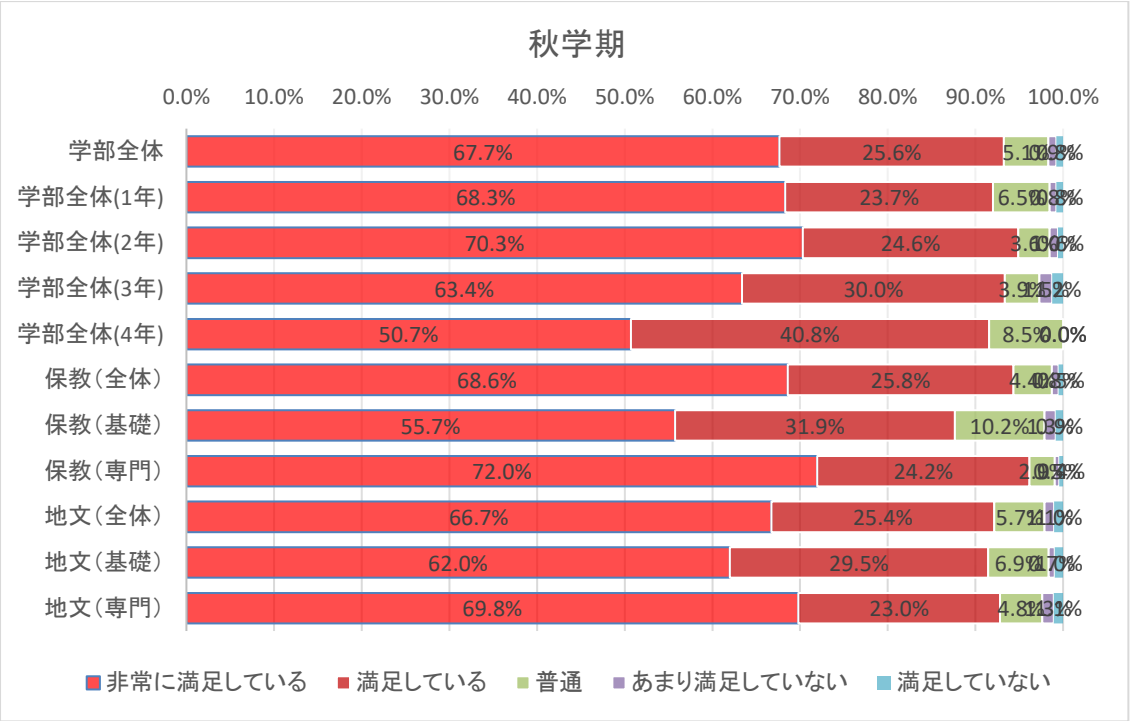
| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均（春） | 1.23 | 2.37 | 2.21 | 3.05 | 3.41 | 3.33 | 2.80 | 3.19 | 3.24 | 3.35 | 3.35 |
| 専門科目 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.37 | 2.34 | 2.21 | 3.44 | 3.63 | 3.60 | 3.36 | 3.50 | 3.53 | 3.52 | 3.63 |
| 平均（春） | 1.29 | 2.37 | 2.23 | 3.30 | 3.54 | 3.58 | 3.19 | 3.32 | 3.41 | 3.42 | 3.49 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **保育教育　　全体** | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.25 | 2.30 | 2.21 | 3.37 | 3.60 | 3.61 | 3.35 | 3.45 | 3.54 | 3.53 | 3.61 |
| 平均（春） | 1.18 | 2.36 | 2.24 | 3.22 | 3.44 | 3.46 | 3.11 | 3.24 | 3.33 | 3.39 | 3.44 |
| 保育教育　　基礎 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.06 | 2.32 | 2.14 | 3.07 | 3.45 | 3.59 | 2.62 | 3.16 | 3.39 | 3.39 | 3.40 |
| 平均（春） | 1.08 | 2.45 | 2.29 | 2.88 | 3.22 | 3.17 | 2.70 | 2.97 | 3.01 | 3.23 | 3.16 |
| 保育教育　　専門 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.30 | 2.29 | 2.23 | 3.45 | 3.65 | 3.62 | 3.54 | 3.54 | 3.58 | 3.56 | 3.67 |
| 平均（春） | 1.21 | 2.34 | 2.23 | 3.31 | 3.50 | 3.54 | 3.23 | 3.31 | 3.42 | 3.43 | 3.51 |
| **地域文化　　全体** | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.36 | 2.36 | 2.18 | 3.33 | 3.60 | 3.51 | 2.99 | 3.41 | 3.45 | 3.47 | 3.56 |
| 平均（春） | 1.35 | 2.37 | 2.21 | 3.25 | 3.55 | 3.56 | 3.07 | 3.31 | 3.38 | 3.41 | 3.47 |
| 地域文化　　基礎 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.22 | 2.28 | 2.17 | 3.18 | 3.56 | 3.45 | 2.69 | 3.35 | 3.43 | 3.48 | 3.51 |
| 平均（春） | 1.31 | 2.33 | 2.17 | 3.13 | 3.50 | 3.42 | 2.85 | 3.31 | 3.36 | 3.41 | 3.45 |
| 地域文化　　専門 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.45 | 2.40 | 2.18 | 3.43 | 3.62 | 3.56 | 3.15 | 3.45 | 3.47 | 3.47 | 3.59 |
| 平均（春） | 1.36 | 2.39 | 2.23 | 3.29 | 3.56 | 3.61 | 3.16 | 3.32 | 3.39 | 3.41 | 3.47 |

表３　各選択肢の番号と点数化について

| 選択肢番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 選択肢の基準 | プラス評価 | ややプラス評価 | ふつう | ややマイナス評価 | マイナス評価 |
| 点数 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |

図１　項目Ｄ（総合評価）の選択肢別割合



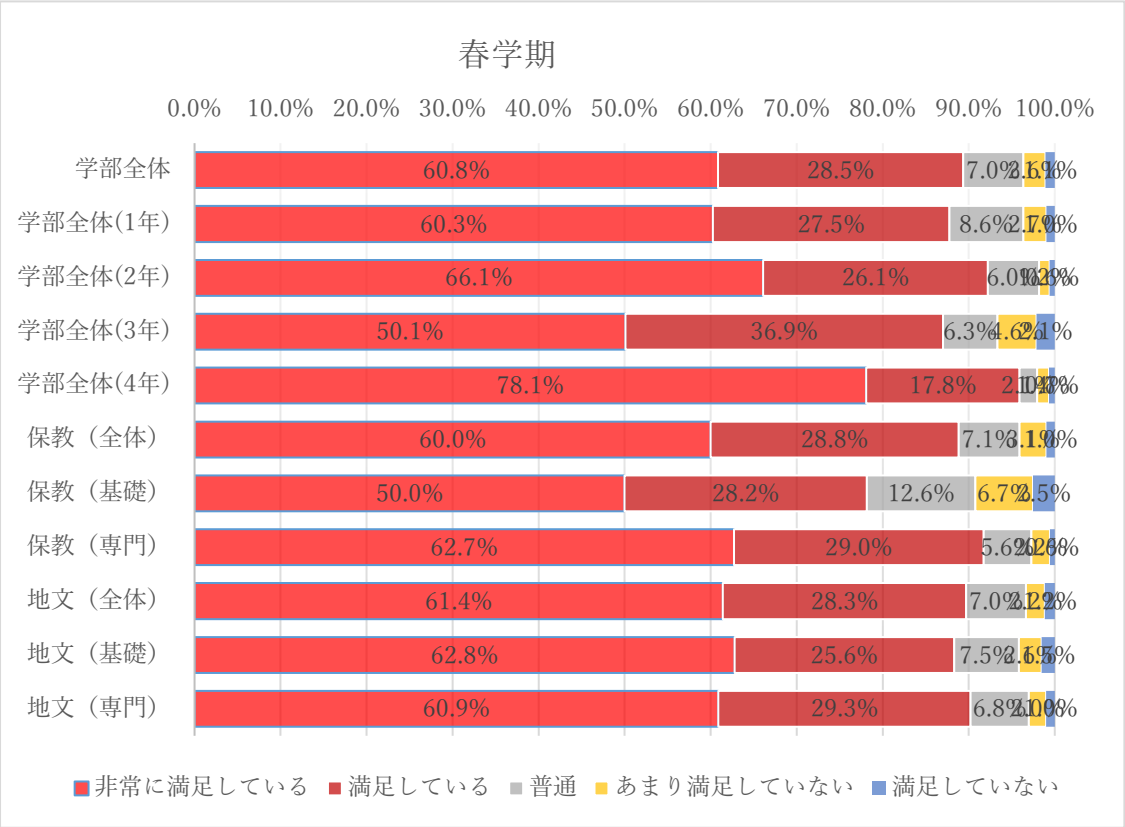
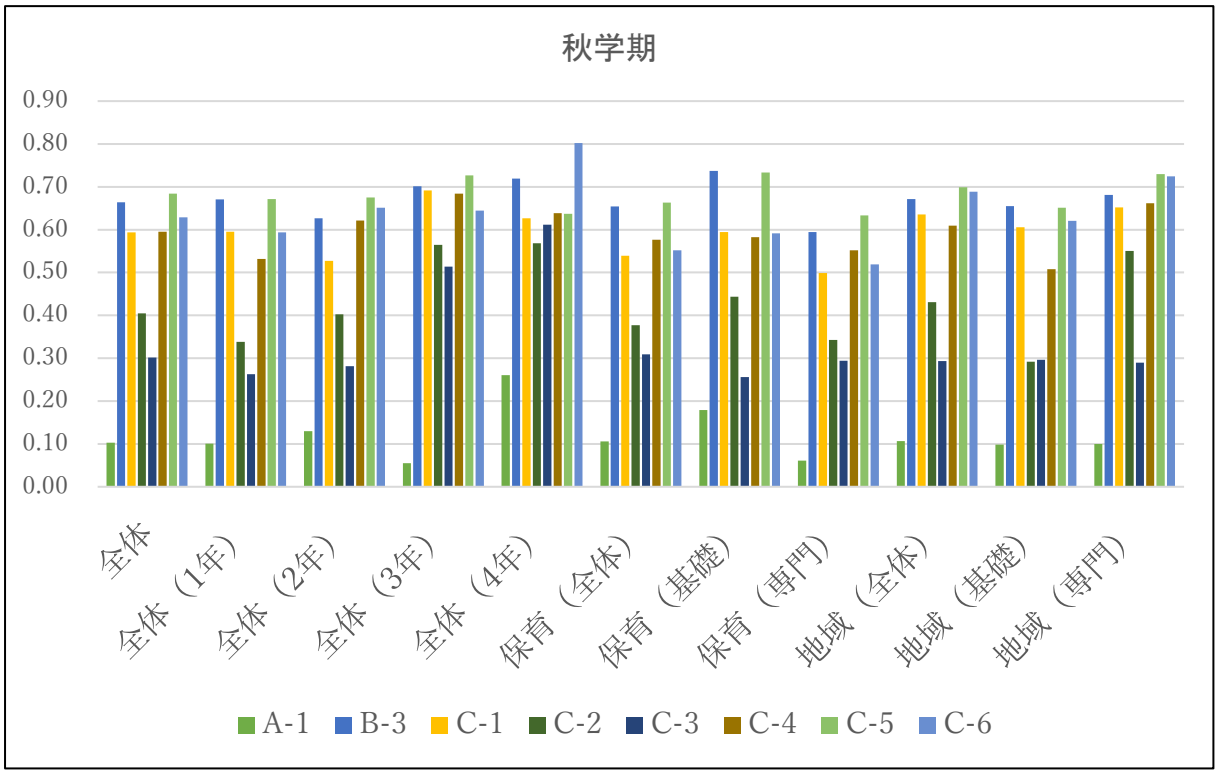
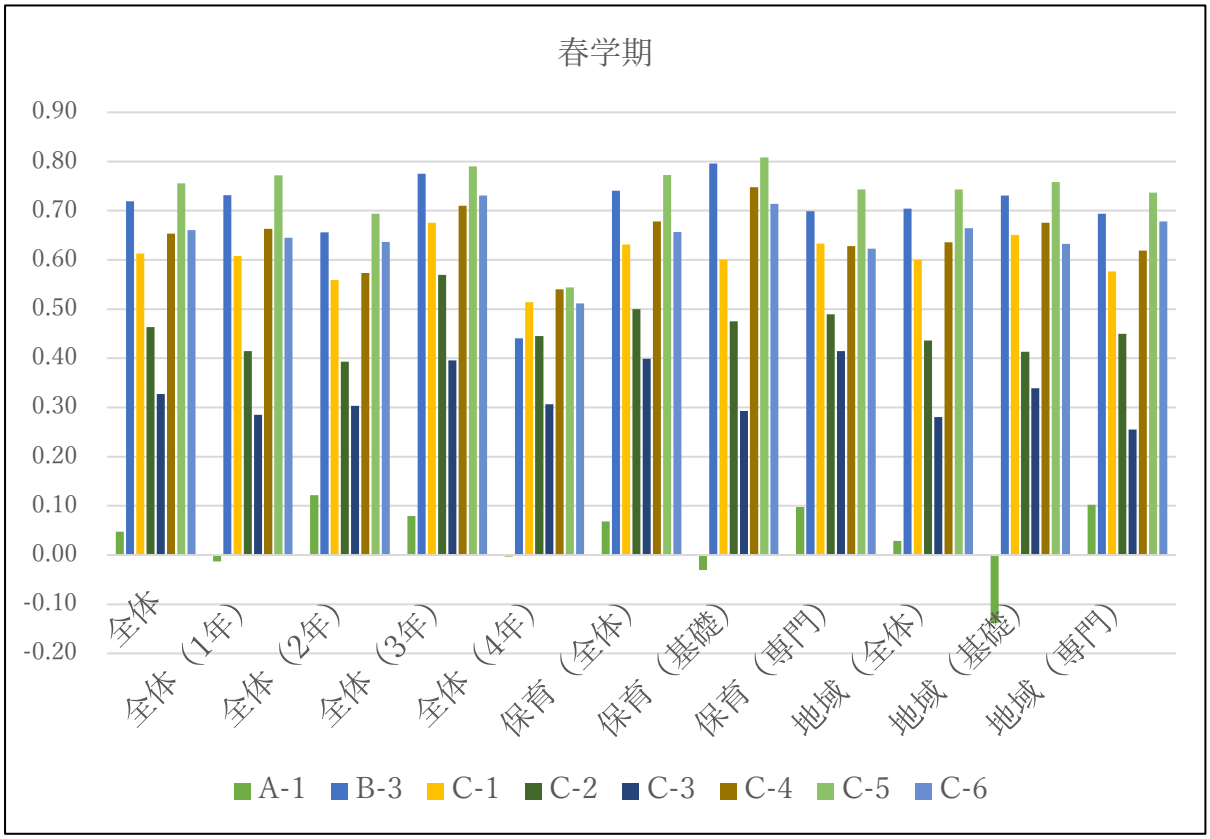



図２　項目Ｄ（総合評価）と各項目の相関関係



## 2 -(2)授業評価アンケートの実施報告（短期大学部）

（1）目　　的：「学生自身の授業に取り組む姿勢」と「教員が行った授業」についてのアンケートを実施し、その結果を授業の工夫や改善に活用する。

（2）方　　法：学生情報システム「Unipa-web」のアンケート機能を使用した。

（3）実施期間：（春学期）令和 4 年 7 月 21 日（木）～8 月 19 日（金）

（秋学期）令和 5 年 1 月 24 日（火）～2 月 17 日（金）

（4）回収率

短期大学部の授業評価アンケートの回収率は、春学期 78.5%、秋学期 76.0%であった。昨年度（春学期 73.9%、秋学期 61.7%）よりいずれも上昇しており、特に秋学期は大幅に上昇した。その理由として、昨年度は特に 12 月後半から新型コロナウイルス感染者数が再び増加に転じて、すべての授業が遠隔になったのに対して、今年度は原則対面授業に戻ったこと、例年以上に FD 委員会からのアナウンスが重視されたことなどが考えられる。

今後、回収率を 100%に近づけていくためには、授業評価アンケートの意義をより一層丁寧に学生に対して周知することに加えて、ポータル画面上で担当授業の回収率をリアルタイムで確認できるようにして、未回答学生のフォローを可能にするなど、システムを再考することが考えられる。

（5）結果および考察

ア　評価実施授業全体としての結果

各評価項目についての平均値は表 2 の通りとなった。平均値は、選択肢を表 3 のように数値化し、合計を有効データ数（データ数－無記入数）で割った数値である。また、項目 D（総合評価）に占める各選択肢の割合を集計したのが図 1 である。

短期大学部全体で授業に対して満足している割合（項目 D に占める「非常に満足している」と「満足している」の割合の合計）は、春学期は 90.2%、秋学期は 92.5%であった。学科別の評価（全体）では、春学期は保育学科 91.0%、総合文化学科 89.0%、秋学期は保育学科 92.6%、総合文化学科 92.2%であり、短期大学部全体、学科ごとのいずれも高い値を示している。

科目分類別に満足している割合を見ると、基礎科目は、春学期では保育学科 97.2%、総合文化学科 84.5%、秋学期では保育学科 86.9%、総合文化学科 93.7%であった。専門科目は、春学期では保育学科 90.3%、総合文化学科 91.1%、秋学期では保育学科 94.1%、総合文化学科 91.2%であった。やや数値にばらつきが見られるものの、両学科とも、基礎、専門科目ともに高い水準にある。

オンライン授業が中心であった令和 2 年度と比して 2 割ほど高い数値となっており、年度を通じてほぼ対面授業を維持できたことが高い満足度につながったものと考えられる。

イ　項目 D（総合評価）と他の評価項目との相関関係

項目 D（総合評価）と関わりが大きい評価項目を明らかにするため、各設問との相関係数を算

出した（図２）。短大全体としては、C-5（説明は分かりやすかった）、C-4（学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた）、B-3（知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった）と総合評価の間に比較的強い正の相関が見られた。特に C-5 は、学科別、科目分類別の統計でも、ほぼすべての区分で高い数値を示しており、とりわけ相関が強いと言える。

なお、A-1（授業外学習に時間をかけた）については、今回も総合評価と関連性がみられなかった。これは、授業の満足が必ずしも学生自身の自発的な学習につながっていないことを示しているが、空きコマの少ない時間割や、実習やフィールドワークの課題が多い点など、カリキュラムの特徴が関連している可能性がある。この項目の取り扱いについては今後検討が必要と考えられる。

表１　アンケートの回収率（過去３年間を含む:令和 1～令和 4 年度の回収率））

| | 学部 | 受講者数 | 回収数 | 回収率（%） |
|---|---|---|---|---|
| R04 秋 | 短期大学部 | 1696 | 1289 | 76.0 |
| R04 春 | 短期大学部 | 1997 | 1568 | 78.5 |
| R03 秋 | 短期大学部 | 1746 | 1078 | 61.7 |
| R03 春 | 短期大学部 | 2122 | 1570 | 73.9 |
| R02 秋 | 短期大学部 | 2006 | 1175 | 58.6 |
| R02 春 | 短期大学部 | 2390 | 1708 | 71.5 |
| R01 秋 | 短期大学部 | 1871 | 1528 | 81.7 |

表２　各評価項目における平均値

| 項目 | A１ | B１ | B２ | B３ | C１ | C２② | C３ | C４ | C５ | C６ | D |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 内容 | 自習 | 授業内容について | | | | 授業方法について | | | | | 総合 |
| | 授業外学習（予習・復習など）に時間をかけた（週あたりの平均で） | 自分の水準に適した授業内容であった | 授業で教わる内容の分量は適切であった | 知的好奇心を刺激し学習意欲を促す内容だった | 準備がよくされていて熱意が感じられた | 遠隔授業における実施機器及び関連アプリが有効に使われていたか | 対面授業における板書・OA・視聴覚機器・配布資料などが有効に使われていたか | 学生の反応や理解度に注意を払いながら授業を進めていた | 説明は分かりやすかった | シラバスで説明される授業の目的や達成目標を達成できたと思うか | 総合的に評価してこの授業に満足している |
| **短大全体** | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.31 | 2.34 | 2.20 | 3.30 | 3.55 | 3.59 | 3.05 | 3.37 | 3.41 | 3.53 | 3.52 |
| 平均（春） | 1.25 | 2.42 | 2.26 | 3.30 | 3.56 | 3.64 | 2.90 | 3.32 | 3.36 | 3.52 | 3.49 |
| 基礎科目 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.23 | 2.48 | 2.25 | 3.09 | 3.45 | 3.57 | 2.39 | 3.13 | 3.28 | 3.44 | 3.37 |
| 平均（春） | 1.21 | 2.48 | 2.26 | 3.29 | 3.56 | 3.53 | 2.65 | 3.22 | 3.27 | 3.48 | 3.46 |

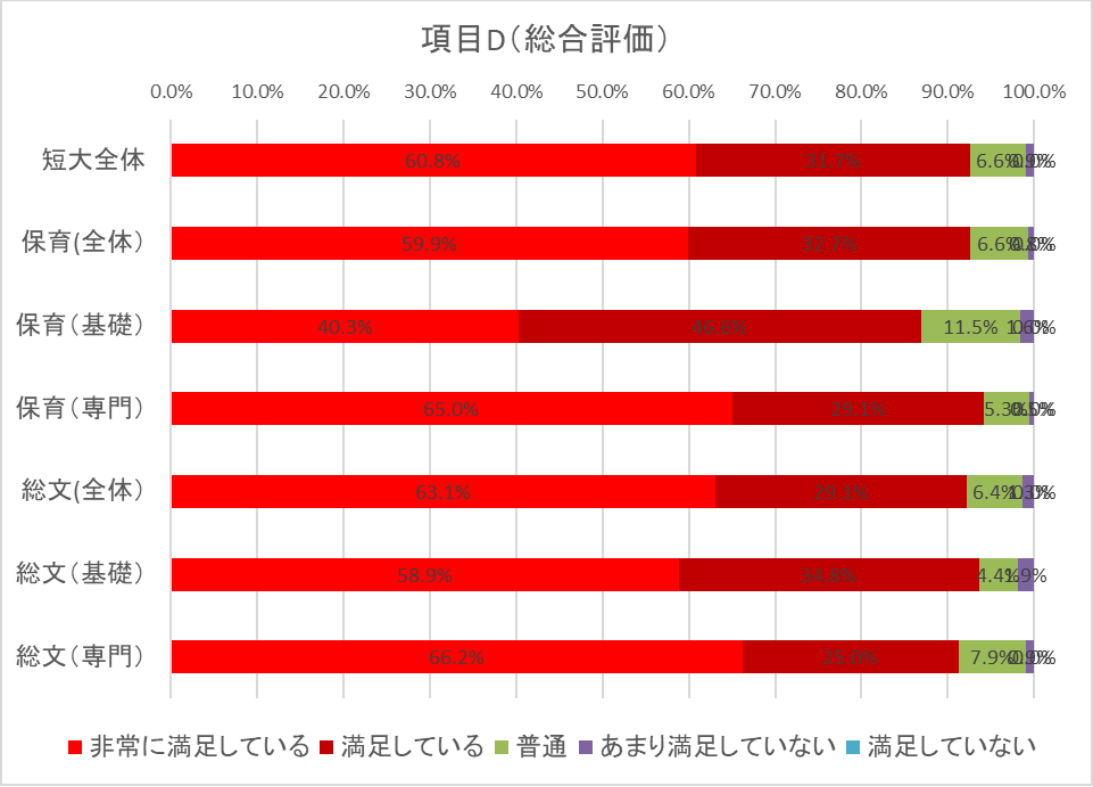
| 専門科目 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均（秋） | 1.34 | 2.29 | 2.18 | 3.39 | 3.59 | 3.60 | 3.29 | 3.45 | 3.45 | 3.56 | 3.58 |
| 平均（春） | 1.26 | 2.41 | 2.27 | 3.30 | 3.56 | 3.66 | 2.95 | 3.34 | 3.38 | 3.52 | 3.50 |

| **保育　　全体** | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平均（秋） | 1.20 | 2.31 | 2.21 | 3.29 | 3.55 | 3.62 | 3.04 | 3.34 | 3.39 | 3.52 | 3.52 |
| 平均（春） | 1.17 | 2.38 | 2.28 | 3.30 | 3.59 | 3.68 | 2.95 | 3.32 | 3.41 | 3.53 | 3.52 |
| 保育　　基礎 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.10 | 2.55 | 2.29 | 2.92 | 3.44 | 3.63 | 2.08 | 2.96 | 3.20 | 3.40 | 3.26 |
| 平均（春） | 1.04 | 2.18 | 2.14 | 3.40 | 3.67 | 3.62 | 2.56 | 3.32 | 3.49 | 3.55 | 3.67 |
| 保育　　専門 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.23 | 2.25 | 2.19 | 3.39 | 3.58 | 3.62 | 3.28 | 3.44 | 3.44 | 3.55 | 3.59 |
| 平均（春） | 1.18 | 2.41 | 2.30 | 3.29 | 3.58 | 3.69 | 3.00 | 3.32 | 3.40 | 3.53 | 3.50 |
| **総合文化　　全体** | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.58 | 2.41 | 2.16 | 3.34 | 3.54 | 3.50 | 3.09 | 3.43 | 3.46 | 3.56 | 3.54 |
| 平均（春） | 1.40 | 2.49 | 2.23 | 3.29 | 3.50 | 3.56 | 2.80 | 3.32 | 3.27 | 3.48 | 3.44 |
| 総合文化　　基礎 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.38 | 2.39 | 2.20 | 3.29 | 3.47 | 3.47 | 2.77 | 3.34 | 3.39 | 3.49 | 3.51 |
| 平均（春） | 1.30 | 2.64 | 2.32 | 3.23 | 3.50 | 3.48 | 2.70 | 3.17 | 3.16 | 3.44 | 3.35 |
| 総合文化　　専門 | | | | | | | | | | | |
| 平均（秋） | 1.72 | 2.42 | 2.13 | 3.38 | 3.59 | 3.52 | 3.32 | 3.50 | 3.51 | 3.62 | 3.56 |
| 平均（春） | 1.45 | 2.42 | 2.19 | 3.32 | 3.50 | 3.60 | 2.85 | 3.40 | 3.33 | 3.50 | 3.48 |

表３　各選択肢の番号と点数化について

| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 選択肢の基準 | プラス評価 | ややプラス評価 | ふつう | ややマイナス評価 | マイナス評価 |
| 点数 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |

図１　項目Ｄ（総合評価）の選択肢別割合（上図：秋学期、下図：春学期）



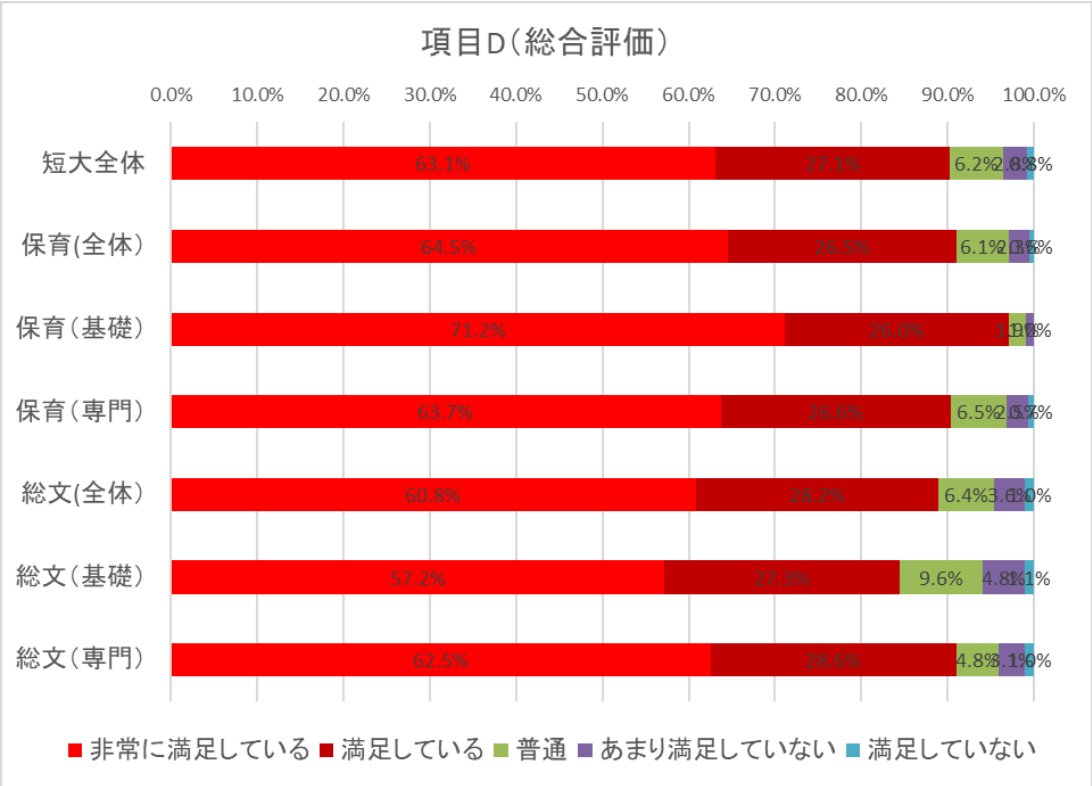
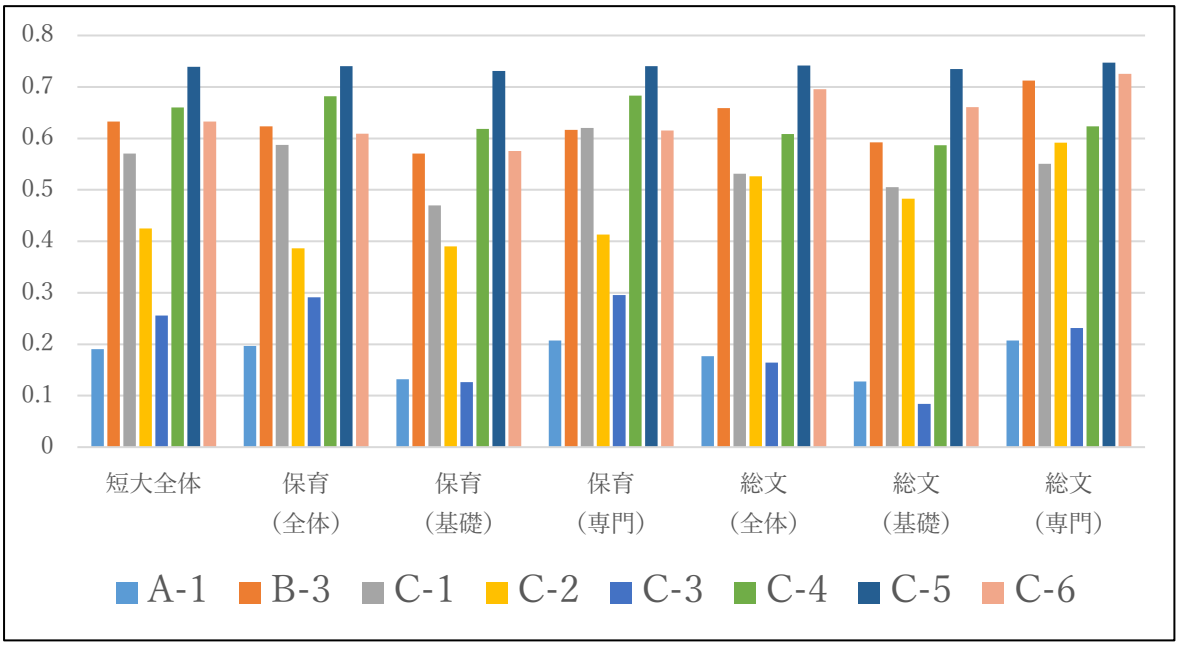
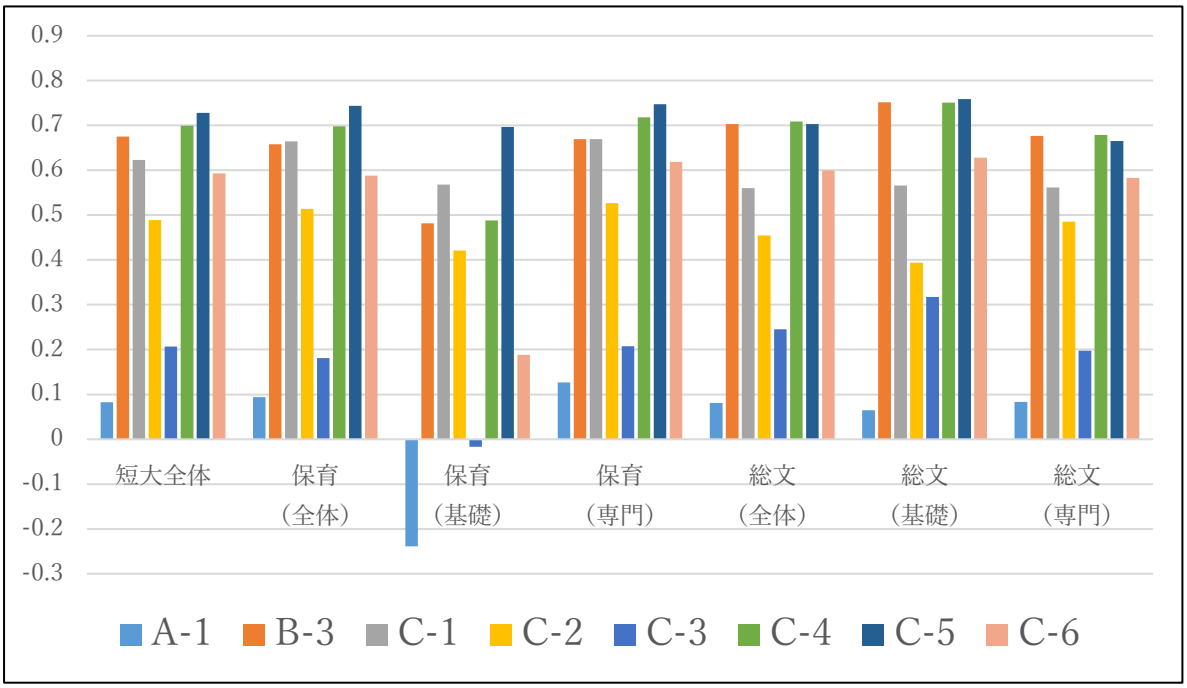



図２　項目Ｄ（総合評価）と各項目の相関関係（上図：秋学期、下図：春学期）



## 3. 松江キャンパス独自の取り組み

### (1) 学外者の第三者の意見聴取（2023 年 2 月）

昨年度まで、第三者の意見聴収について検討を進めてきたが、本年度は島根大学教育学部 FD 戦略センターとの交流を始めることができた。2023 年 2 月 21 日に縄田裕幸氏・島根大学教育学部 FD 戦略センター長を訪ね、本キャンパスの FD 活動について紹介し、客観的な示唆をいただいた。（参加者：福井委員長、桶谷教務学生課主事、藤原教務学生課主任）次年度以降も継続して交流する約束が得られているため、年度の終盤には意見聴取を行いたい。また、島根大学には高等教育を専門とする大学教育センターがあり、大学全体に関与している。こちらの組織にも交流を展開できることが望ましい。

今後は、授業で交流のある、島根県中小企業家同友会や、学生の実習・就職先が多く参加している松江市保育研究会、あるいは連携協定を結ぶ連携高等学校、中学校、小学校、幼保園との連携も視野に、第三者の意見聴取について検討を継続させたい。

### (2) 他の委員会と FD 委員会の共催研修会

本キャンパスでは、他の委員会と協働して学内研修会を企画・実施している。

**①「人文・社会科学における研究倫理と研究不正」（倫理審査委員会との共催）**

日時：2022 年 12 月 15 日（木）14：50～16：20

講師：小森田秋夫 （東京大学名誉教授）

・大学教員がわきまえておくべき研究倫理の基礎的事項

・それを遵守しなかった場合に生じる研究不正がどんなものか

・「人を対象とする研究」の適応範囲等について

・大学生の研究を指導する上で留意するべき研究倫理について

研修会はオンライン開催であったため、浜田と出雲キャンパスからも教職員が参加した。

**②障がい学生支援委員会との共催研修会**

多様化する入学生や、在学生に適切な学修支援ができるよう、法令を基軸とした最新情報を共有する研修会を開催した。

2023 年 3 月からオンデマンド配信

講師：西村健一氏（障がい学生支援委員会委員長）

坂根千歳氏（元県立高校長）

### (3) 授業評価アンケート実施に対する Web システムの活用

本キャンパスでは、学生が授業評価アンケートの回答を「UNIPA」システムを利用している。また教員が各授業のアンケート結果を参照する際にも利用している。このことで、回答学生が時間の制約を受けずにアンケートに記入できる点と、アンケート集計を機械的に単純集計が出来るといった利点が挙げられる。

また専門業者によるデータ分析の結果を基に FD 委員会で「アンケート調査概要および分析」を作成し、全授業担当者に配布している。そのことによって、学科別の比較や、教員が担当科目の結果について学科平均等と項目別に比較することを可能とし、授業改善に生かされている。

## 4. 松江キャンパス今後の課題

2018 年度に学部・学科の大幅な改編が行われた松江キャンパスにおいて、2022 年度は、新しい組織的 FD・SD 活動が始まって 5 年目であった。しかし、前々年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響で、遠隔授業を取り入れるなどコロナ禍以前とは異なる教授方法により授業実施することが継続的に必要となった。当初計画していた授業内容を変更せざるを得ないケースや、実技や実習を講義に置き換える措置をとった授業もみられた。次年度も、コロナ禍での対応が継続的な課題として挙げられるが、それ以外の課題について下記の項目を挙げる。

### (1) FD 研修会の内容検討について

2 学部、4 学科が共存する本キャンパスにおいて、FD 研修会が参加者の専門性によって有益性に偏りが生じるという課題が近年確認されていた。そのため、テーマ別の研修会を数回に分けて実施し、それぞれの教員が関心のある研修会を選択して参加する方法を計画していたが、新型コロナウイルス対応によって実現していない。来年度以降は、教員の専門や授業形態別の小単位の研修会を実施することについて検討を進めたい。

### (2) 授業評価アンケートの実施と、教員フィードバックの回答率

授業評価アンケートの学生回答率の低下傾向が続いている。次年度以降さらに低下が続くようであれば、紙ベースのアンケート実施に戻すなどの対策が必要であろう。また、教員からのフィードバック率は向上してきたが、学部、学科に差が認められるため、キャンパス全体として、取り組んでいく必要がある。

### (3) 教職協働の FD・SD 活動の充実について

ここ数年に渡り、研修会への事務職員の参加者数が少ないことが課題の一つとして挙げられてきた。次年度以降も事務職員と教員が合同で学べる研修会の開催が検討される必要があろう。また、学外の研修会に事務職員と教員が共に参加する等、協働のあり方を検討していきたい。

### (4) 授業の公開および第三者の意見聴取について

本年度も昨年度に続いてコロナウイルス感染拡大の影響で、授業公開は実施できていない。次年度は遠隔授業を取り入れた授業運営となって 4 年目であるため、遠隔授業の授業公開・参観について検討・計画したい。

また、第三者の意見聴収については、2022 年度に島根大学教育学部 FD 戦略センターとの交流がスタートさせられた。この交流活動を、本キャンパスにおける FD・SD 活動の拡充につなげていくことが課題であろう。また、高等教育を専門に研究する島根大学の大学教育センターや、学生の就職先となる島根県中小企業家同友会や、松江市保育研究会、あるいは連携協定を結ぶ連携高等学校、中学校、小学校、幼保園との連携も視野に、第三者の意見聴取について検討を継続させたい。